



2. 科目履修上の注意

全学共通科目について

「全学共通科目」は、全学部で共通に開講される科目であり、「人間力向上」「語学教育」「総合的教養」の各分野の科目によって構成されます。これらを通じて、主に勤儉誠実の信念と共生き（ともいき）の理念に基づく人間力の向上を図るとともに、総合的教養を身につけます。

(1) 「人間力向上」の分野は、「共生」「健康・スポーツ」「キャリア」に区分されます。

- ① 「共生」では、「共生人間論Ⅰ(ブグダと法然)」(自校教育を含む)「共生人間論Ⅱ」(Ⅰ・Ⅱは必修)、「共生人間論実習」(経営学部必修)を開講し、仏教の立場から「共生き」について考察します。これらを通じて、勤儉誠実、共生きなどの態度を身につけます。
- ② 「健康・スポーツ」では、「健康と運動」のほか、「スポーツ」の実技授業として、バドミントン、テニス、バスケットボール、バレーボールなどの種目を開講します。これらを通じて、健康づくりの習慣や、自己管理能力、チームワークなどの態度を身につけます。
- ③ 「キャリア」では、「キャリアデザインⅠ」「キャリアデザインⅡ」(Ⅰ・Ⅱは必修)、「キャリアサポートⅠ」「キャリアサポートⅡ」「キャリアサポートⅢ」を1年次から3年次まで継続的・体系的に開講します。また、3年次には「キャリア実践研究」「キャリア実務演習」を開講し、これらを通じて、コミュニケーション・スキル、論理的思考力、専門的職業人としての倫理・使命感・責任感を身につけます。

(2) 「語学教育」の分野は、「外国語」「日本語」に区分されます。

- ① 「外国語」では、「総合英語Ⅰ」「総合英語Ⅱ」「総合英語Ⅲ」(Ⅰ・Ⅱは必修)、「英会話Ⅰ」「英会話Ⅱ」「英会話Ⅲ」(Ⅰ・Ⅱは必修)、「中国語Ⅰ」「中国語Ⅱ」、「韓国語Ⅰ」「韓国語Ⅱ」、「フランス語Ⅰ」「フランス語Ⅱ」、「英語リーディングⅠ」「英語リーディングⅡ」「英語リーディングⅢ」「英語ライティング」「英語ディスカッション」を開講します。これらを通じて、外国語を的確に読み、書き、聞き、話す技能(コミュニケーション・スキル)を身につけます。
- ② 「日本語」では、「日本語表現法 A(音声)」「日本語表現法 B(文章)」を開講します。これらを通じて、日本語を的確に読み、書き、聞き、話す技能(コミュニケーション・スキル)を身につけます。

(3) 「総合的教養」の分野は、「歴史・文化」「情報」「人文」「社会」「自然・環境」に区分されます。

- ① 「歴史・文化」では、「日本の歴史」「世界の歴史」「異文化理解」「日本文化論」「庶民生活の文化」を開講します。これらを通じて、幅広い総合的教養を身につけるとともに、日本と世界の歴史、様々な文化について幅広く理解します。また、「日本の文化」の実技授業として、書道、茶道、華道、舞踊、陶芸を開講し、日本の伝統文化について学びます。
- ② 「情報」では、「情報リテラシーA」(情報セキュリティを含む)「情報リテラシーB」を開講し、情報通信技術を用いて、多様な情報を適切に取捨選択し、分析活用する技能を身につけます。
- ③ 「人文」では、「哲学の基礎」「倫理学の基礎」「心のメカニズム」「日本の文学」「外国の文学」を開講し、幅広い総合的教養を身につけるとともに、思想、文学などについて幅広く理

解します。

- ④「社会」では、「憲法と基本権」「社会生活と法」「暮らしと経済」「市民生活と政治」「国際事情」「社会福祉学の基礎」「現代社会と生活A」（ジェンダー論を含む）「現代社会と生活B」を開講します。これらを通じて、幅広い総合的教養を身につけるとともに、社会と人間のかかわりを総合的に理解します。
- ⑤「自然・環境」では、「生活と環境A」「生活と環境B」「自然と環境」「生命の科学」「生活と化学」「数の世界」「人類とエネルギー」を開講します。これらを通じて、幅広い総合的教養を身につけるとともに、自然・環境と人間のかかわりを総合的に理解します。

有資格者の単位認定について

下記に掲げる資格を有する学生は、証明書を持参の上、履修登録開始日から履修登録訂正最終日(16:00)までに教務課へ申し出てください。審議を経て、下記に準じた単位が認定されます。

授業科目名	単位数	認定基準
総合英語Ⅰ／総合英語Ⅱ／総合英語Ⅲ／ 英会話Ⅰ／英会話Ⅱ／英会話Ⅲ	2	実用英語技能検定試験2級 TOEFL 450点以上 520点未満 TOEIC 520点以上 640点未満
	4	実用英語技能検定試験準1級 TOEFL 520点以上 550点未満 TOEIC 640点以上 810点未満
	6	実用英語技能検定試験1級 TOEFL 550点以上 TOEIC 810点以上
中国語Ⅰ／中国語Ⅱ	2	中国語検定試験3級以上
韓国語Ⅰ／韓国語Ⅱ	2	韓国語能力試験3級以上
フランス語Ⅰ／フランス語Ⅱ	2	実用フランス語技能検定試験3級以上

- 注 1. この制度の運用は内規により行います。
2. すでに単位認定された科目についての申請は認めません。

スポーツ健康科学部科目について

次にあげる科目は履修登録や成績評価、授業の方法等において特徴のある科目です。履修登録前に熟読し十分な理解をしておいてください。

① 同一科目名の再履修について

単位を修得できなかった科目を、同一年度内に再履修することはできません。

② 共生人間論実習について

本学の目指す人間論は、頭や学問で理解するだけでは不十分であり、人間としての共生の生きざまを実践的に修得してはじめて身につく、という考え方に立っています。

「共生人間論実習」は選択科目です。「共生人間論Ⅰ(ブグダと法然)」の授業を受けたうえ、自ら選択した施設等において4日間の実習に臨みます。

具体的な実施の方法は、下記のとおりです。

ア. 実習の対象となる学生にガイダンスを実施します。

イ. ガイダンスを受講し、実習の趣旨を十分に踏まえた上で各自が実習内容を立て、科目担当者の了解を得ます。

ウ. 実習内容の了解が得られたら、実習期間・施設などの内容を確定して報告承認を得ます。実習内容に沿った施設選択などは各自が交渉し、了承を得ることになります。

エ. 施設などで4日間の実習を行い、終了後『実習記録』を提出します。

オ. 事後報告会に出席し、実習で学んだことを報告・討議します。

③ 演習科目について

ア. 基礎演習は、基本的な学習スキル、読む・聞く・見る・検索するなどの情報収集能力及び必要な情報を取捨選択する能力や、その情報に基づいて結論を導く能力、その結論について書く・話すなどの表現・発信の能力を訓練するための必修科目です。各クラス20名程度で編成されます。

基礎演習Ⅰ・Ⅱのそれぞれの到達目標はどのクラスも同じです。

イ. 専門基礎演習は学生自身が主体的に一定のテーマに沿って実践的に学び、専門的知識を深め、その結果をまとめ、発表できる能力をつけるための必修科目です。

ウ. 専門演習は、各教員の専門分野を中心に指導を受け、各自の興味のある課題について調査・研究し、ゼミで発表する過程を通じて卒業研究あるいは研究成果の作成へと発展させていく、重要な必修科目です。各ゼミ15～20名程度で編成します。ゼミを自由に選択できますが、専門演習Ⅰ・Ⅱ(3年次)、専門演習Ⅲ・Ⅳ(4年次)は、原則として同じゼミに所属してください。